

松島町手樽地区でタケノコを生産・加工・販売している丹野隆子さんは、2018年からイチジクの栽培を始めた。今では、秋期のちょっとした収入源となっている。

始めたきっかけは、タケノコ加工で使用している真空パック器で、冷凍保存したイチジクを梱包する業務を委託されたこと。試食したイチジクから「自分で栽培した完熟果を食べてみたい」と考え定植した。

現在は果実が大きく、糖度が高い品種のパナーネ等150本を栽培している。丹野さんは「暗渠整備されたほ場のため、排水が良く生育は順調。収穫や剪定が容易に行えるように、主枝を水平に仕立てる一文字整枝への切り替えを進めているが、樹勢が強く苦労している」と課題を挙げる。

近隣の産地直売所を通して出荷を開始し、生食向けの完熟果（200円/100個）と加工用（1000円/kg）を販売している。丹野さんは「管理しやすいほ場づくりを進め、収穫量を増やして収入の増加に繋がりたい。ドライイチジクの商品化も検討中だ」と話す。

【記事執筆】 宮城県農業会議

収穫中の丹野さん



イチジク成木。「摘心や脇芽かきをしないとあっという間に繁茂してしまう」と丹野さん



造りしたイチジク（左：生食向け、右：加工用向け）

